

2025年度 一般選抜問題
前期B日程 2025年1月26日(日)

選 択 科 目

(数学・基礎理科・物理・化学・生物・日本史・世界史・国語)

数 学	1～ 6ページ
基 礎 理 科	7～ 26ページ
※2科目選択して1科目の扱いとなります。	
物 理	27～ 39ページ
化 学	41～ 54ページ
生 物	55～ 67ページ
日 本 史	69～ 80ページ
世 界 史	81～ 95ページ
国 語	97～112ページ

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 3科目型の受験生および3科目型と2科目型を併願する受験生は上記の科目から2科目を、2科目型の受験生は、上記科目と英語から2科目を選択してください。但し受験票に記載された科目以外を受験すると0点となります。
3. 解答用紙には、「**数学**」(青色)と「**基礎理科**」(赤色)と「**数学・基礎理科以外**」(赤色)の3種類があります。
4. 試験開始後、解答用紙に受験番号と名前を必ず記入し、受験番号をマークしてください。数学以外の科目については、解答する科目を選び、科目の右にマークしてください。また解答科目欄に科目名を記入してください。正しくマークされていない場合は0点となります。
5. 解答はすべて解答用紙の解答欄にマークしてください。「**基礎理科**」の解答用紙は2科目を選択し、科目ごとに決められた解答欄にマークしてください。3科目に解答した場合は0点となります。
6. 問題用紙の余白は計算に使用してもかまいませんが、解答用紙を汚してはいけません。
7. 試験開始後、問題用紙・解答用紙に落丁・損傷がないか確認してください。
8. 数学の問題の冒頭には「**解答上の注意**」が記入されていますので、必ず読んでから解答してください。
9. 試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。

日本史

1 古代から近代までの日本と朝鮮半島との関係に関する次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えなさい。

日本列島と朝鮮半島の交流は縄文時代以前にさかのぼるとみられるが、本格的な往来が文献史料によって確かめられるのは弥生時代以降である。両地域とも、中国を中心とする東アジア文化圏に属し、(a)古墳時代には、漢字・儒教・仏教などが朝鮮半島経由で日本列島に導入された。日本列島側の政治勢力にとって、先進的な文物を導入するためには朝鮮半島の諸国や諸地域と関係を結ぶことが重要であり、朝鮮半島側にとっても、周辺の諸国・地域との対立・抗争に勝ち抜くために、日本列島の政治勢力との連携は重要であった。

7世紀に唐と結んだ新羅が百済と高句麗を滅ぼし、さらに唐の勢力を追い出して半島を統一した。(b)8世紀には日本と新羅は対立を深めたが、9世紀には新羅は衰退し、朝鮮半島は分裂状態に陥った。10世紀前半には高麗が朝鮮半島を統一したが、日本と高麗は正式な国交を結ぶことはなかった。13世紀には北方のモンゴルが高麗を征服し、ここを拠点に日本に襲来する事件も起こった。(c)高麗は14世紀後半に衰退し、その武将であった李成桂により滅ぼされ、李成桂は朝鮮王朝を樹立した。朝鮮は建国とともに日本に通交を求め、室町幕府もこれに応じて正式な国交が開かれ、(d)日朝間で貿易が行われるようになった。日本側の貿易に対する意欲は大きく、貿易の拡大を求める日本側と縮小をはかる朝鮮側との対立が拡大し、16世紀初めには **ア** が起こった。

その後、貿易に対する朝鮮側の統制が強まり、貿易は次第に衰えた。16世紀末に日本を統一した豊臣秀吉の命による(e)朝鮮侵略(出兵)が行われ、両国の関係は悪化したが、徳川家康の時期には国交は回復し、以後、(f)朝鮮王朝と江戸幕府との間で外交関係が結ばれた。

江戸時代には、対馬藩を仲介とした安定した外交関係が継続された。19世紀後半、日本では江戸幕府が滅亡し、新政府が権力を掌握して朝鮮との国交樹立をはかったが、鎖国政策をとる朝鮮側が交渉を拒否したため、日本国内では征韓論が唱えられた。その後 **イ** をきっかけとして日朝修好条規が締結されて朝鮮は開国し、日本との貿易も行われるようになった。朝鮮では伝統的な清との関係を重視する勢力と、日本にならって近代化をめざそうとする勢力の対立に、清と日本の勢力争いも絡んで紛争が起こった。結局、朝鮮をめぐる日清間の対立から日清戦争が起こり、これに勝利した日本は清に朝鮮の独立を認めさせた。その後日本は、朝鮮や満洲をめぐるロシアとの対立を深め、日露戦争が起こった。この戦争にかろうじて勝利した(g)日本は、朝鮮(韓国)を併合して植民地とした。

日本による植民地支配は、当初は武力によって抵抗を抑え込もうとする武断政治であったが、三一独立運動後には、憲兵警察を廃止するなど軌道修正された。1930年代には、戦時体制が強まるなかで「皇民化」政策がとられ、創氏改名の強制などが行われた。

第二次世界大戦後、朝鮮半島は南北に分割占領され、南北にそれぞれ国家がたてられて分断状態が固定化した。1950年には朝鮮戦争が起こり、アメリカや中国も事実上参戦して激戦となった。その後休戦協定が結ばれたが、以後も南北の緊張関係は続き、(h)日本と南北両国との関係も曲折を経ながら今日にいたっている。

問1 空欄 **ア** ・ **イ** に入る語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 **1**

- ① **ア** 応永の外寇 **イ** 義和団戦争 ② **ア** 応永の外寇 **イ** 江華島事件
③ **ア** 三浦の乱 **イ** 義和団戦争 ④ **ア** 三浦の乱 **イ** 江華島事件

問2 下線部(a)に関して、朝鮮半島経由で日本列島に伝わった文物について述べた文として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 **2**

- ① 伝わった漢字を用いて日本語を書き表すことができなかつたため、かな文字が生まれた。
② 儒教は、百済から渡来した五経博士などにより伝えられた。
③ 仏教は、新羅の聖明王により仏像・経論などが贈られたことにより伝えられた。
④ 須恵器の製法は、秦氏の祖である弓月君によって伝えられた。

問3 下線部(b)に関連して、これ以前の日本(倭)と新羅が関係した出来事について述べた次の文 **X**・**Y**について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、下の①～④の中から一つ選びなさい。 **3**

- X** 6世紀前半には、新羅と結んだ豪族が、大王軍と戦った磐井の乱が起こった。
Y 7世紀後半には、唐・新羅連合軍と日本(倭)の軍が戦った白村江の戦いが起こった。

- ① **X** 正 **Y** 正 ② **X** 正 **Y** 誤
③ **X** 誤 **Y** 正 ④ **X** 誤 **Y** 誤

問4 下線部(c)について、14世紀に高麗が衰退した対外的要因の一つとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 **4**

- ① 中国の島しょ部を拠点とした倭寇の略奪
② 日本の島しょ部を拠点とした倭寇の略奪
③ 中国東北部を本拠とした渤海の攻撃
④ 沿海州を本拠とした渤海の攻撃

問5 下線部(d)に関連して、室町時代の日朝貿易に関して述べた文 **a**～**d**について、正しいものの組合せを、下の①～④の中から一つ選びなさい。 **5**

- a** 日本側は幕府のほか、商人や守護などが朝鮮に船を派遣して、貿易が行われた。
b 朝鮮側は貿易を厳しく統制し、勘合を所持する船だけが貿易を行うことができた。
c 朝鮮から日本へは、硫黄・木綿などがもたらされた。
d 日本から朝鮮へは、銅・蘇木・香木などが輸出された。

- ① **a**・**c** ② **a**・**d** ③ **b**・**c** ④ **b**・**d**

問6 下線部(e)に関連して、豊臣秀吉による朝鮮侵略の際に日本に初めて伝えられたものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 6

- ① 銀の精錬技術である灰吹法
- ② 庶民芸能に影響を与えた三味線
- ③ 木製活字を用いた印刷術
- ④ 多色刷版画の制作技法

問7 下線部(f)に関連して、江戸時代の日朝関係について述べた文として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 7

- ① 朝鮮と対馬の宗氏との間で己酉約条が結ばれ、これにもとづいて貿易が行われた。
- ② 朝鮮から江戸幕府へ、将軍就任の慶賀などの名目で慶賀使が派遣された。
- ③ 江戸幕府から朝鮮へ、国王就任の慶賀などの名目で通信使が派遣された。
- ④ 将軍徳川吉宗は、朝鮮国書での「日本国大君殿下」という表現を「日本国王」に改めさせた。

問8 下線部(g)に関連して、日本が朝鮮(韓国)を植民地化する過程での出来事などに関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥の中から一つ選びなさい。 8

- Ⅰ 前韓国統監の伊藤博文が、ハルビンで暗殺された。
- Ⅱ 第2次日韓協約が結ばれ、日本が韓国の外交権を奪った。
- Ⅲ ハーグ密使事件をきっかけに、韓国皇帝が退位に追い込まれた。

- ① Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ
- ② Ⅰ→Ⅲ→Ⅱ
- ③ Ⅱ→Ⅰ→Ⅲ
- ④ Ⅱ→Ⅲ→Ⅰ
- ⑤ Ⅲ→Ⅰ→Ⅱ
- ⑥ Ⅲ→Ⅱ→Ⅰ

問9 下線部(h)に関して述べた文として**適当でないもの**を、次の①～④の中から一つ選びなさい。 9

- ① 大韓民国との間で日韓基本条約が調印され、国交樹立が実現した。
- ② 大韓民国の間では、植民地支配に関する歴史認識問題などをめぐって対立が起こった。
- ③ 朝鮮民主主義人民共和国との間で日朝平壤宣言が発表され、国交の正常化が実現した。
- ④ 朝鮮民主主義人民共和国の間では、日本人拉致問題などをめぐって対立が続いている。

2 古代・中世の藤原氏の動向に関する次の文章を読み、下の問い（問1～9）に答えなさい。
（史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。）

藤原氏は、中大兄皇子とともに乙巳の変を主導したとされる(a)中臣鎌足が、その死に際して天智天皇から藤原の姓を賜ったことに始まる。鎌足の子不比等は、持統天皇以降、天皇の信頼を受けて大宝律令の編纂にあたるとともに、娘を天皇の妃とするなど天皇家と姻戚関係を結んで勢力を伸ばした。不比等の子の4兄弟は、官人として次々に昇進し、勢力を伸ばした。4人は妹の光明子の立后をめぐる対立した長屋王を、策謀を用いて自殺に追い込み政権を握った。しかし、その8年後に4人とも天然痘で病死した。この後、藤原広嗣が **ア** で反乱を起こしたこともあり、藤原氏の勢力は一時後退したが、やがて光明皇后（皇太后）の後援を受けた (b)藤原仲麻呂が台頭し、政権を掌握した。一時は独裁的な権力をふるった仲麻呂は、孝謙太上天皇のもとで急速に力を伸ばした道鏡の排斥をはかって挙兵したものの、逆に滅ぼされた。その後道鏡は政権を握ったが、孝謙太上天皇が重祚した称徳天皇の死とともに権力を失い、左遷された。以後は、天智天皇系の光仁天皇の擁立に活躍した藤原氏北家の永手や、式家の百川らが力を伸ばした。

奈良時代末期から平安時代初期にかけては、桓武天皇のもとで式家の種継や緒嗣が活躍した。次に(c)平城太上天皇の変（薬子の変）に際して新設された蔵人頭に任命された北家の冬嗣が、天皇家と姻戚関係を結んで台頭し、以後その子孫である良房・基経が幼帝の外戚として政務を代行する摂政に就任するなど、北家が有力となった。基経は、成人後の天皇の補佐役である関白に初めて就任し、その後一時期を除いて北家の中心人物が摂政・関白として政治を主導する体制が形成されていった。その過程では、(d)藤原氏北家のライバルとなる有力氏族が勢力を失う契機となる事件が起こり、さらには藤原氏北家（摂関家）内部で激しい後継者争いがみられた。

11世紀前半には(e)摂関政治の全盛時代を迎えた。11世紀後半に摂関家の人物を外戚としない **イ** が即位し、摂関家の勢力を抑えようとした。この流れは子の白河天皇に引き継がれ、天皇の母方の摂関家が政治を主導してきた摂関政治から、父方の上皇が権力を掌握する院政へと移行した。院政は(f)平安時代末期には国政全般を動かす力を持ったが、(g)鎌倉時代以降にも朝廷内の権力のあり方として継続した。院政の下で摂関家は最高の家格の公家として勢力を保ったが、その内部では血統の分立が進み、のちに「五摂家」と呼ばれる五つの家格が成立した。室町時代には、(h)二条良基や一条兼良など、摂政・関白を務めるとともに文化面で名を残した人物があらわれた。

問1 空欄 **ア** ・ **イ** に入る語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 **10**

- | | | | |
|---------------|----------------|---------------|----------------|
| ① ア 九州 | イ 後鳥羽天皇 | ② ア 九州 | イ 後三条天皇 |
| ③ ア 東北 | イ 後鳥羽天皇 | ④ ア 東北 | イ 後三条天皇 |

問6 下線部(e)について、摂関政治の全盛時代を示す次の史料について述べた文として**適当でないもの**を、下の①～④の中から一つ選びなさい。 15

(寛仁二年(注1)十月)十六日乙巳^{いつし}、今日、女御藤原威子を以て皇后に立つるの日なり。〈A 前太政大臣の第三娘なり。一家、三后を立つること、未だ曾て有らず〉……B 太閤、C 下官を招き呼びて云く、「和歌を讀まむと欲す。必ず和すべし^{てえり}」者。答へて云く、「何ぞ和し奉らざらむや」。又云ふ、「誇りたる歌になむ有る。但し宿構^{しゆくこう}(注2)に非ず」者。「此の世をば我が世とぞ思ふ望月のかけたることも無しと思へば」。D 余申して云く、「御歌優美なり。酬答^{しゅうとう}に方無し。満座只此の御歌を誦すべし。……」と。

(『小右記』)

(注1) 寛仁二年：1018年

(注2) 宿構：前々から準備したもの

- ① 下線部Aと下線部Bはともに、当時閑白であった藤原道長のことである。
- ② 下線部Cと下線部Dはともに、この史料の筆者である藤原実資のことである。
- ③ この史料の場面から、当時は和歌を事前に準備することがあったことがわかる。
- ④ この史料の場面の翌年には、九州で刀伊の来襲が起こった。

問7 下線部(f)に関して、この時期の出来事に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥の中から一つ選びなさい。 16

- Ⅰ 後白河上皇が、今様などの歌謡を集成した『梁塵秘抄』を編纂した。
- Ⅱ 平清盛・源義朝らの軍勢が、崇徳上皇方の軍勢を打ち破った保元の乱が起こった。
- Ⅲ 鳥羽上皇が、皇女の八条院に多数の荘園を相続させた。

- ① Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ ② Ⅰ→Ⅲ→Ⅱ ③ Ⅱ→Ⅰ→Ⅲ
- ④ Ⅱ→Ⅲ→Ⅰ ⑤ Ⅲ→Ⅰ→Ⅱ ⑥ Ⅲ→Ⅱ→Ⅰ

問8 下線部(g)に関連して、鎌倉時代の摂関家出身の人物に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして最も適当なものを、下の①～④の中から一つ選びなさい。 17

- X 藤原(九条)頼経は、幕府の将軍後継者に迎えられ、のちに正式に将軍となった。
- Y 慈円は、道理による歴史の解釈を試みた『神皇正統記』を著した。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤
- ③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

問9 下線部(h)について述べた文 a～d について、正しいものの組合せを、下の①～④の中から一つ選びなさい。 18

- a 二条良基は、南北朝時代に北朝側で摂政・関白などを務めた人物であった。
- b 二条良基は、連歌の規則書である『閑吟集』を作成した。
- c 一条兼良は、将軍足利義尚の問いに答えた政治上の意見書『樵談治要』を著した。
- d 一条兼良は、『古今和歌集』の解釈を秘事口伝する古今伝授を開始した。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

3 江戸時代の思想や学問などに関する次の文章を読み、空欄 19 ～ 27 に入る語句として最も適当なものを、それぞれの①～④の中から一つ選びなさい。

江戸時代、為政者に最も重視された学問は儒学である。特に上下の秩序を重んじる朱子学の思想は、封建社会の基礎となる教学として幕府や藩に重視された。徳川家康は、五山僧出身の 19 〔①藤原惺窩 ②桂庵玄樹 ③松永尺五 ④室鳩巢〕の講義を聞き、その弟子で五山僧出身の林羅山を登用して法令の起草など幕政に参与させた。林羅山は4人の将軍の侍講を務め、その子孫も儒者として幕府に仕えた。羅山の孫の林鳳岡（信篤）は5代将軍徳川綱吉から 20 〔①文章博士 ②歌学方 ③蔵人頭 ④大学頭〕に任じられ、以後幕府の教学を司った。綱吉の侍講を務めた木下順庵や、その弟子の新井白石も同じ頃に活躍した朱子学者であり、また保科正之に用いられるとともに 21 〔①唯一神道 ②垂加神道 ③伊勢神道 ④復古神道〕を説いた山崎闇斎も、南学の朱子学者であった。

朱子学以外の儒学としては、明の王陽明が創始した陽明学が、その実践的性格などから注目を集めた。陽明学者としては、江戸時代前期に中江藤樹や岡山藩の 22 〔①前田綱紀 ②徳川光圀 ③池田光政 ④上杉治憲〕に用いられた熊沢蕃山らが活躍したが、江戸時代後期には、大坂で民衆とともに武装蜂起した大塩平八郎が知られる。また朱子学や陽明学のような後世の解釈を排して、直接孔子や孟子の原典などに立ち返ることを主張する古学派もさかんになり、8代将軍徳川吉宗の諮問に答えて『政談』を著した 23 〔①山鹿素行 ②伊藤仁斎 ③太宰春台 ④荻生徂徠〕らが出て、影響力を持った。

儒学以外の教学としては、 24 〔①石田梅岩 ②安藤昌益 ③竹内式部 ④二宮尊徳〕が始めた心学が、民衆に生活倫理などを説いて勢力を拡大した。さらに江戸時代後期には、より思想性を持った国学がさかんになった。国学は、古典研究から日本の古代思想を研究し、中国思想に影響されない日本古来の精神に立ち返ることを主張した。『古事記伝』を著し、国学を大成した 25 〔①塙保己一 ②本居宣長 ③賀茂真淵 ④平田篤胤〕は、現実の政治や社会についても発言した。また尊王論もさかんになり、その中心であった水戸藩では 26 〔①調所広郷 ②橋本左内 ③会沢安（正志斎） ④吉田松陰〕などが尊王攘夷論を説き、国学系統の尊王攘夷論とともに、政治運動にも影響を与えた。

同時期には、幕藩体制の動揺にどのように対処すべきかを論じる経世論もさかんになった。西洋諸国との交易による富国策を説いた 27 〔①『経世秘策』 ②『暦象新書』 ③『稽古談』 ④『海国兵談』〕を著した本多利明らのほか、工藤平助や林子平などの議論も広い意味で経世論に加えることができる。

4 近現代の産業に関する次の文章を読み、下の問い（問1～9）に答えなさい。

明治新政府は、富国強兵をめざして殖産興業に力を入れた。鉄道・通信・金融など産業の基盤を整備するとともに、(a) 政府自ら官営工場や鉱山を経営した。輸入超過による金などの流出に苦しむ政府は、外貨獲得産業である製糸業の振興に特に力を入れ、官営模範工場として富岡製糸場を設立した。以後次第に広まった **ア** は、在来の技術による製糸とともに、輸出用生糸の生産を担い、外貨獲得に貢献した。鉱山は初期には政府直営が中心であったが、明治時代中期には民間への払下げが行われ、払下げを受けた政商のなかにはこれを中核として、(b) 財閥へと成長していくものもいた。

地租改正で定額地租を主要財源とした政府は、物価上昇とともに財政難に陥ったため、1880年代前半に行われた、いわゆる(c) 松方財政で財政立て直しをはかった。またこの時期に金融制度の整備が行われたことは、1880年代後半の企業勃興につながった。この時期の企業勃興の中心になったのは紡績・鉄道であり、紡績業では大阪紡績会社の成功に刺激され、次々に輸入の紡績機械を導入した大規模工場が設立された。鉄道では各地方で資本金を集めて鉄道会社を興し、鉄道を開通させようとする動きがさかんになった。

19世紀末から20世紀初めにかけて(d) 日清戦争・日露戦争が起こるとともに、産業革命が進行した。中心となったのは紡績業である。その製品である綿糸は国内の需要を満たすとともに、主にアジア地域へ輸出された。大正時代にかけては綿織物の輸出が伸びるとともに、日本の紡績会社が中国で現地工場を経営することも増えていった。

(e) 第一次世界大戦が起こると、日本経済は好景気になったが、戦後には生産過剰などから恐慌が起こり、以後1920年代には恐慌が相次いで、不況が慢性化した。長く続く不況からの脱出をめざして、財界の要請を受けた立憲民政党の浜口雄幸内閣は、緊縮財政政策をとったうえで **イ** を意味する金解禁を断行したが、アメリカで始まった世界恐慌の影響を受け、輸出が激減するなど日本経済はさらなる不況に陥った。

世界的に恐慌が深刻化・長期化するなかで、(f) 日本経済は他国より早く恐慌から立ち直ったが、日本の輸出は他国との摩擦を強め、世界では恐慌対策として保護貿易やブロック経済化が進展していった。1930年代には、(g) 満洲事変・日中戦争と中国大陸での軍事行動を背景に軍需が増大し、軍部と結びついた新興財閥が急成長するなどの動きがみられたが、戦時体制が長期化するなかで国民生活は窮乏した。日本はさらに第二次世界大戦に参戦し、資源や生産力は限界を迎えた。

敗戦後、日本経済はどん底に沈んだが、アメリカの援助や傾斜生産方式の採用などもあって、生産は徐々に回復した。朝鮮戦争が勃発すると特需景気が起こり、工業生産は急速に発展した。以後、1955年頃からいわゆる(h) 高度経済成長が始まり、日本経済は大きく成長した。

問1 空欄 **ア** ・ **イ** に入る語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 **28**

- ① **ア** 座繰製糸 **イ** 金本位制からの離脱
- ② **ア** 座繰製糸 **イ** 金本位制への復帰
- ③ **ア** 器械製糸 **イ** 金本位制からの離脱
- ④ **ア** 器械製糸 **イ** 金本位制への復帰

問2 下線部(a)に関して、明治時代初期の官営工場や鉱山として**適当でないもの**を、次の①～④の中から一つ選びなさい。 **29**

- ① 東京砲兵工廠 ② 横須賀造船所 ③ 佐渡金山 ④ 別子銅山

問3 下線部(b)に関して、明治時代から大正時代にかけて成立した財閥について述べた次の文**X**・**Y**と、該当する下の語句 **a** ・ **b** との組合せとして最も適当なものを、あとの①～④の中から一つ選びなさい。 **30**

X 岩崎弥太郎がおこした海運会社を基盤とした。

Y 足尾銅山など鉱山業を中心に発展した。

a 三井 **b** 三菱

- ① **X** - **a** ② **X** - **b** ③ **Y** - **a** ④ **Y** - **b**

問4 下線部(c)に関連して、松方財政やその影響などについて述べた次の文**X**・**Y**について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、下の①～④の中から一つ選びなさい。 **31**

X 軍事費以外の歳出を徹底的に緊縮し、歳入の余剰で不換紙幣を整理した。

Y 農産物価格の下落により農民の生活は苦しくなり、定額金納の地租の負担が重くなった。

- ① **X** 正 **Y** 正 ② **X** 正 **Y** 誤
- ③ **X** 誤 **Y** 正 ④ **X** 誤 **Y** 誤

問5 下線部(d)について、これらの戦争が産業に与えた影響や、戦後の経済状況などについて述べた文として**適当でないもの**を、次の①～④の中から一つ選びなさい。 **32**

- ① 日清戦争の賠償金の大半は軍事費に用いられ、産業の発展を促進した。
- ② 日清戦争後には企業勃興が進み、資本主義が本格的に成立した。
- ③ 日露戦争の賠償金の大半は軍事費に用いられ、産業の発展を促進した。
- ④ 日露戦争後には、貿易収支の赤字や、外債の利払いなどから国際収支が悪化した。

問6 下線部(e)に関連して、第一次世界大戦時の経済・産業の動向などについて述べた文として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 33

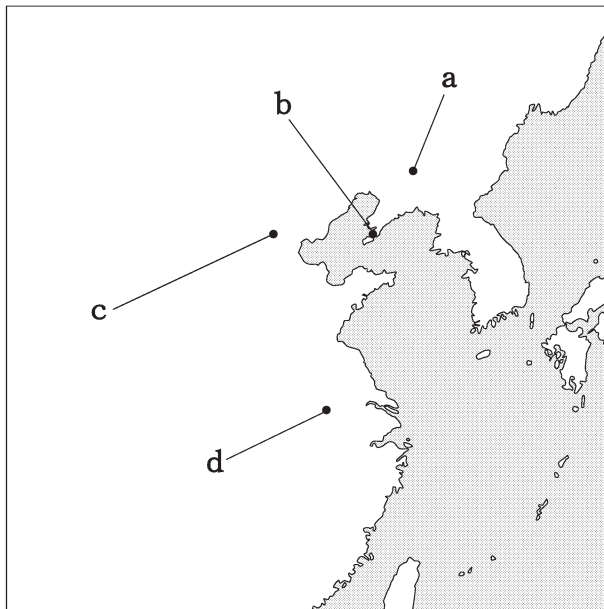
- ① アメリカへの生糸の輸出が増加し、製糸業は好況となった。
- ② 八幡製鉄所の操業が開始されるなど、鉄鋼業が発展した。
- ③ ドイツからの輸入が途絶したため造船業が発展した。
- ④ エネルギー源の石炭から石油への転換が進んだ。

問7 下線部(f)に関連して、日本が他国より早く恐慌から回復した理由などについて述べた文 a～d について、正しいものの組合せを、下の①～④の中から一つ選びなさい。 34

- a 円安によって綿織物などの輸出が急速に拡大した。
- b 円高によって綿織物などの輸出が急速に拡大した。
- c 地租の税率を大幅に引き上げることによって、軍事費などの歳出を増大させた。
- d 赤字国債を発行することによって、軍事費などの歳出を増大させた。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

問8 下線部(g)に関して、満洲事変(X)・日中戦争(Y)と、それらが勃発するきっかけとなった出来事が起こった次の地図上に示した位置 a～d との組合せとして最も適当なものを、下の①～④の中から一つ選びなさい。 35



- ① X—a Y—c ② X—a Y—d
- ③ X—b Y—c ④ X—b Y—d

問9 下線部(h)に関連して、高度経済成長期の出来事に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥の中から一つ選びなさい。 36

Ⅰ 東京オリンピックが開催された。

Ⅱ アメリカのニクソン大統領が、金とドルとの交換停止を発表した。

Ⅲ 『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された。

① Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ ② Ⅰ→Ⅲ→Ⅱ ③ Ⅱ→Ⅰ→Ⅲ

④ Ⅱ→Ⅲ→Ⅰ ⑤ Ⅲ→Ⅰ→Ⅱ ⑥ Ⅲ→Ⅱ→Ⅰ